

# 平田好成先生経歴

昭和 四年 八月八日

朝鮮大邱府生まれ

同 二八年 三月

九州大学法学部政治学科卒業

同 二八年 四月

同大学院法学研究科進学

同 二八年十二月

同大学院法学研究科退学

## 職 歴

昭和二八年十二月

鹿児島大学助手文理学部

同 三七年 四月

鹿児島大学講師文理学部

同 三九年一月

鹿児島大学助教授文理学部

同 四〇年 四月

鹿児島大学助教授法文学部

同 四六年 四月

鹿児島大学教授法文学部

同 五〇年 五月

鹿児島大学学生部長（昭和五四年四月まで）

同 五六年 四月

鹿児島大学評議員（昭和五六年一月まで）

平成 七年 三月

鹿児島大学教員停年規則により退職

同 七年 四月

鹿児島大学名誉教授の称号授与

# 研 究 業 績

## (一) 著書

- |     |                      |   |   |   |   |   |       |
|-----|----------------------|---|---|---|---|---|-------|
| (1) | 政治学講義 (共著)           | 法 | 律 | 文 | 化 | 社 | 昭和三四年 |
| (2) | 政治学入門 (共著)           | 法 | 律 | 文 | 化 | 社 | 昭和三七年 |
| (3) | 政治学 ―現代政治と日本― (共著)   | 法 | 律 | 文 | 化 | 社 | 昭和四〇年 |
| (4) | 現代政治史 (共著)           | 法 | 律 | 文 | 化 | 社 | 昭和四三年 |
| (5) | 改訂政治学 ―現代政治と日本― (共著) | 法 | 律 | 文 | 化 | 社 | 昭和四四年 |
| (6) | フランス人民戦線論史序説 (単著)    | 法 | 律 | 文 | 化 | 社 | 昭和五二年 |

## (二) 論文

- |     |  |                 |       |
|-----|--|-----------------|-------|
| (1) | 国際政治に於けるフランス・反ファシズム人民戦線の意義 ―戦争と平和の理論―                | 鹿兒島大学法政研究第二卷第一号 | 昭和二九年 |
| (2) | フランス人民戦線の本質について                                      | 九州大学政治研究第3号     | 昭和三〇年 |
| (3) | パリ・コミュニケーション政治史の一考察<br>―とくにパリ・インターナショナル派の政治的役割をとおして― | 鹿兒島大学社会科学報告第四号  | 昭和三二年 |
| (4) | アンリ・クロード著「民族に抵抗する独占体」                                | 鹿兒島大学社会科学報告第五号  | 昭和三三年 |

- (5) フランス人民戦線運動に関する若干の理論的問題  
―序論的考察 九州大学政治研究第八号 昭和三四年
- (6) ド・ゴール政治体制についての一資料 鹿児島大学社会科学報告第七号 昭和三五年
- (7) アンリ・クロードの研究を中心にして― フランス人民戦線運動論(1) 鹿児島大学社会科学報告第八号 昭和三六年
- (8) フランス人民戦線運動論(2) 鹿児島大学社会科学報告第九号 昭和三七年
- (9) フランス人民戦線運動論(3) 鹿児島大学社会科学報告第十号 昭和三八年
- (10) フランス人民戦線運動論(4) 鹿児島大学社会科学報告第十一号 昭和三九年
- (11) 新植民地主義の概念について 鹿児島大学法学論集第一号 昭和四〇年
- (12) レーニン主義の国際主義論に関する研究ノート 鹿児島大学法学論集第二号 昭和四一年
- (13) ド・ゴール体制とフランス・ナシユナリズム 竹原良文編著・具島兼三郎教授還暦記念論文集  
【ナシヨナリズムの政治学的研究】三一書房 昭和四二年
- (14) コミンテルン第七回大会論 鹿児島大学法学論集第三号 昭和四二年
- (15) コミンテルン第七回大会とコミンテルン・フランス支部 鹿児島大学法学論集第四号 昭和四三年
- (16) 新植民地主義と第三世界 日本国際政治学会編【国際政治】第39号  
―フランス新植民地主義を中心として 「第三世界―その政治的諸問題」有斐閣 昭和四四年
- (17) フランス人民戦線政府論 鹿児島大学法学論集第五卷第一号 昭和四四年
- (18) フランスにおける共産主義の研究について 九州大学政治研究第一八号 昭和四五年

- |      |  |                    |       |
|------|--|--------------------|-------|
| (19) | フランス人民戦線政治史の諸問題<br>―三つの党史を中心として―                   | 鹿兒島大学法学論集第六卷第一号    | 昭和四五年 |
| (20) | フランス人民戦線政治史総括の一視点                                  | 鹿兒島大学法学論集第七卷第二号    | 昭和四七年 |
| (21) | フランス人民戦線組織論序説                                      | 鹿兒島大学法学論集第八卷第一号    | 昭和四七年 |
| (22) | フランス人民戦線政治史研究上の諸問題(1)                              | 鹿兒島大学法学論集第九卷第二号    | 昭和四九年 |
| (23) | フランス人民戦線政治史研究上の諸問題(2)                              | 鹿兒島大学法学論集第十卷第一号    | 昭和四九年 |
| (24) | フランス人民戦線政治史研究の一視点(1)                               | 鹿兒島大学法学論集第十一卷第一号   | 昭和五〇年 |
| (25) | フランス人民戦線政治史研究の一視点(2)                               | 鹿兒島大学法学論集第十二卷第一号   | 昭和五一年 |
| (26) | フランス人民戦線術の史的検討<br>―コミンテルンとフランス人民戦線についての<br>つの問題提起― | 歴史学研究会編『歴史学研究』青木書店 | 昭和五二年 |
| (27) | フランス人民戦線と民主主義                                      | 鹿兒島大学法学論集第十三卷第一号   | 昭和五三年 |
| (28) | フランス人民戦線の理論的諸問題(1)                                 | 鹿兒島大学法学論集第十四卷第一号   | 昭和五三年 |
| (29) | フランス人民戦線研究の新動向                                     | 鹿兒島大学法学論集第十五卷第一号   | 昭和五四年 |
| (30) | フランス人民戦線研究の新視点(1)                                  | 鹿兒島大学法学論集第十六卷第一号   | 昭和五五年 |
| (31) | 反ファシズム論の研究視点について<br>―フランスのケースを中心として―               | 鹿兒島大学法学論集第二三卷第一・二号 | 昭和六二年 |
| (32) | ブルム人民戦線内閣論の周りに(一)                                  | 鹿兒島大学法学論集第二四卷第一号   | 昭和六三年 |
| (33) | ブルム人民戦線内閣論の周りに(二)                                  | 鹿兒島大学法学論集第二四卷第二号   | 平成元年  |

- (34) 世界を横切つて人民戦線(一) 鹿児島大学法学論集第二五卷第一・二号 平成二年
- (35) 世界を横切つて人民戦線(二) 鹿児島大学法学論集第二六卷第一号 平成二年
- (36) 世界を横切つて人民戦線(三) 鹿児島大学法学論集第二六卷第二号 平成三年
- (37) 世界を横切つて人民戦線(四) 鹿児島大学法学論集第二七卷第一号 平成三年
- (37) 世界を横切つて人民戦線(五・完) 鹿児島大学法学論集第二七卷第二号 平成四年
- (38) フランス人民戦線の地方的研究(一) 鹿児島大学法学論集第二八卷第一号 平成四年
- (39) フランス人民戦線の地方的研究(二・完) 鹿児島大学法学論集第二八卷第二号 平成五年
- ―一九三四―三九年ピレネー・ゾリアンタール県における共産党の歴史―
- (40) (一九)三〇年代のフランスについて(一) 鹿児島大学法学論集第二九卷第一・二号 平成六年
- (41) (一九)三〇年代のフランスについて(二・完) 鹿児島大学法学論集第三〇卷第一号 平成六年
- (42) 危機のフランス人民戦線政治史(抜粋) 鹿児島大学法学論集第三〇卷第二号 平成七年

(三) その他

(1) 口頭発表

フランス人民戦線政治史に関する若干の問題点

日本政治学会研究会

昭和四六年